

## 【研究ノート】

## 日本幼児教育史再考

——大正期の竹中幼稚園の会集について——

金子 晃 之

Reconsidering the History of Early Childhood Education in Japan

—About Kaishu of Takenaka Kindergarten in the Taisho Era—

Teruyuki KANEKO

## はじめに

前稿では岡山県倉敷にある竹中幼稚園の保育内容であった会集、律動、遊戯、自由遊び、仕事（手技、恩物）を再現し、会集についてはやや詳細に再現し、それらを、大正期の幼稚園史の流れの中に位置づけることを試みた。

本稿では、竹中幼稚園の保育内容の柱となる会集についてさらに詳細に再現することにした。

竹中幼稚園の保育内容の柱となる会集については、竹中光子（年代不明）『會集』というものがあるが、それは「會集」、「春ノ會集」、「夏ノ會集」から構成されている。前稿では「會集」（全体的かつ概要的な記載）に依拠して會集の概要を整理したが、本稿では「春ノ會集」について整理しながら、「春ノ會集」の特性を、「會集」の概要と重ね合わせて考察する。

以下、竹中幼稚園において会集の順序となっている奏樂、祈祷、讃美歌、挨拶、暦、歌、話の順で整理する。尚、引用文中において一マス空いていたり、「。、。」が混在しているのは、原資料の文言をそのまま記載したためである。

## 1. 奏樂

「春ノ會集」の奏樂において演奏される曲は、次の4曲である。

- イ 白キバラ（セオダー・オーステン作）
- ロ 樂シゲナル農夫（シューマン、作品六十八番ノ十）
- ハ 牧童（ウイルソン作）
- ニ 春ノ曲（メンデルソン作）

「會集」にあった奏樂の目的は、「1 精神的ノ修養」「2 多クノ幼児ヲ一致セシム」「3

美シキ音楽ニ對シテ幼児ハ我ヲ忘レテ耳ヲ傾ケ自然ニ律の音色ヲ覺ユ」「4 時節ノ氣分ヲ作ル……時ニ應ジテ氣分ヲ作り得」とあり、音楽的には美しき曲と演奏が時節の氣分に潤いを与えることが大切になる。特に曲については「會集」の中に注意として次のようにある。

- 1 曲ノ選擇…時節ニ適ヒタルモノヲ選ブ  
時候ト子供ノ氣分トヲヨク考ヘル  
ナルベク高尚ナルモノヲ選ブ
- 2 奏スル人ハ其曲ヲ生カス様常ニ勉ムベシ  
(作曲者ノ心持ヲ理解スル必要アリ)
- 3 調律ヲ整ヘテ後奏ス
- 4 餘リ時間ハ長クナラザル事
- 5 幼児ノ前ニテハ絶対ニ練習セザル事…幼児ノ自ラ樂器ヲ重ンジ、常ニ樂器ガ何ヲ語り出サントスルカニ注意スルニ至ル
- 6 奏セントスル曲ヲ幼児ニ説明スルモ可ナリ

ここでは、時節に相応しく高尚なものが選曲のポイントとなる他、演奏者側の曲に対する理解、調律、演奏時間、曲についての子どもへの説明がポイントとなっている。

## 2. 祈祷

祈祷で祈られる事柄について、「春ノ會集」には次のようにある。

- イ 暖カキ春風ハ心地ヨク吹き来リテ今マデ眠リシ草木ヲ呼び醒シテ美ハシキ花ヲ咲カセ給フ事ヲ感謝ス。
- ロ 地中ニ眠リシ虫ハ地上ニ出テ来リ、小鳥ハ巢ヲ営ミテ雛ヲ育てル用意ヲナス事ノ出来ルヲ附ス。
- ハ 春雨ガ降りテ草木ヲ次第ニ成長ナサシムル事ヲ感謝ス。
- ニ 小川ノ氷ハ溶ケテ水量ガ増シ小魚ハ樂シゲニ遊泳セル事ヲ感謝ス。
- ホ 日ガ長クナリテ幼児ノ等ハ長ク遊ベル事ヲ感謝ス。

これは祈祷を行う際、具体的に言葉として表す事柄だと考えられる。

というのは「會集」の中で祈祷の目的は、「1 人間以上ノ偉大ナル力ノ在ル事ヲ知ラシム……即チ神ト自分トノ關係ヲ知ラシム」「2 日々受ケツツアル恩恵ヲ感謝セシム」「3 我々ハコノ神即自分以上ノ偉大ナル力ニ依ラザレバ決シテ生クル事能ハザル事ヲ知ラシム」というように抽象的な表現で記載されていた。

しかしながら「會集」の中で祈祷の注意点は、「3 言葉ハ完全ニシテ而モ幼児ニ理解シ得

ル言葉ヲ用フ」「4 具体的ニ祈ル事……例…『雨降ラバ草木ハ沐浴スル事ガ出来獸類ヤ鳥類ハ飲ム水ガ出来テ喜ブ』とあり、ここから上記の「春ノ會集」のイからホは、祈りの具体的な言葉であったと考えられる。春の訪れと共に生き物たちの息吹が発露し、人間もまた長く遊ぶ時間を授けられることを喜び感謝する祈りの言葉といえよう。

### 3. 讃美歌

春に歌われる讃美歌については、「春ノ會集」に次のようにある。

第二編ノ七ノ譜

“寒イ冬過ギテ暖カナ春ガ木ノ葉ヲ起シテ小虫ヲ呼び出ダス。木モ鳥モ花モ小サイ我等ト嬉シイ神様ニオ礼ヲ申シマス。”

第二編ノ中……四十五 五十 五十二

ゆきびらノ中……五十四 五十七 五十八

これらについては、「會集」の中にある讃美歌の注意として、「1 幼児ニ理解シ得ベキ歌詞ト容易ナル譜トヲ用フ」「2 幼児ニ理解シ得ル範圍ニテ高尚ナモノヲ撰ブ」「3 具体化サレタルモノナルベシ」「4 單純ナモノヲ撰ブ」とあり、容易さと高尚さとで選ばれたものと考えられる。

### 4. 挨拶

「春ノ會集」には、次のようにある。

イ オジギシテオ早ヤウ…

ロ オ早ヤウ先生、御機嫌ハ如何…

ハ 先生オ早ヤウ、皆サンオ早ヤウ…

ニ イツクシム先生オ早ヤウ…

これらについては、「會集」の中にある挨拶の注意としては、「1 丁寧ニサセル」「2 姿勢ヲ正シク保チテサセル」「3 一同揃ツテサセル」とあり、特に時節を反映させたものにはなっていない。

### 5. 暦

「春ノ會集」には、次のようにある。

イ 三月ノ部

- 1 雛壇ヲツクリソノ上ニ内裏雛及五人囃ヲ飾リタルヲ画キ毎日菱餅ヲ貼リ行キ雨天ニハ桃ノ花ヲ貼ル
- 2 梅ノ木ヲ画キヲキテソレニ毎日花ヲ貼リ行ク（一花ヅツ切りヌキヲク）日曜ニハ鶯ヲ貼ル

ロ 四月ノ部

- 1 ボートレースノ画ヲカキ一舟ヲ一週ニナシテ四隻ボートヲ並ベヲキテ毎日ソノ中へ人ヲ貼リ行ク 日曜ニハ旗ヲツケル
- 2 野原ニ美シク花ノ咲ケル絵ヲ画キ 毎日蝶ヲ貼リ行ク

ハ 五月ノ部

- 1 柳ノ枝ニ蛙ノ飛ビ付カントセル絵ヲ画キ 毎日オタマジャクシヲ貼リ行キ 日曜ニ緋鯉ヲ貼ル
- 2 四軒ノ家ヲ画キ一本ヅツ竿ヲ立テヲキソレニ毎日鯉幟リヲ一ツツツ貼リ行ク

これらについては、「會集」の中の暦の目的に「1 時ノ観念ヲ保クス」「イ 一日ガ七ツ集リテ一週トナル」「ロ 一週ガ四ツ集リテ一月トナル」「ハ 一月ガ十二集リテ一年トナル」とあり、時間の物差しを子どもに形成することを意図していたと考えられる。これは「會集」の中の暦の注意にある、「2 時節ニ應ジタルモノヲ用フ」「4 幼児ニ理解シ得ル範囲内ニテ、ナルベク高尚ナルモノヲ画ク。」「6 繪ガ主意ニナリテ暦ガ附属ニナラザルヤウニスベシ…時ヲ示スノガ目的ナレバナリ」「9 一週間ヅツ順序正シク纏メテ貼ラスベシ。…月、火、水ヲ飛ビトビニ貼ルベカラズ」にも表れている。

3月には雛壇に毎日菱餅を貼り、雨天には桃の花を貼ることや、梅の木に花を貼り日曜日には鶯を貼ること、4月には4隻のボートに毎日人を貼り付け日曜日には旗を貼り付けることや、花に蝶を貼り付けること、5月には蛙にオタマジャクシを貼り日曜日には緋鯉を貼ることや、竿に鯉幟を貼ることで、「時ノ観念」と「時節ニ應ジタルモノヲ用フ」することを表していた。

## 6. 歌

「春ノ會集」には、次のようにある。

1 特別ノ日ノ歌

イ 三月ノ部

a 卒業式ノ歌

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| a “小サキ我等ニヨキ事教ヘ給ヒシ師ノ君…” | 養成所筆記 |
| b “手ニ手ヲ取りテ遊ビツツ…”       | 養成所筆記 |
| c “花咲ク春モ雪ノ日モ…”         | 筆記    |

- d “東モ西モ知ラザルモ…” 筆記
- b 雛ノ節供ノ歌
- a “上ノ段ニハダイリサマ…” 筆記
- b “今日ハウレシイ三月三日…” 大正幼年唱歌九
- c “今日ハオ節句ヒナサマハ桃ノ花咲ク…” 筆記
- d “モウセンシキテ、ヒナダンカザリ…” 筆記
- ロ 四月ノ部
- a 神武天皇祭ノ歌
- ハ 五月ノ部
- a 端午ノ節句ノ歌
- a “大キナ口ニ風ヲノミ空ヲバオヨグ鯉幟…” 筆記
- b “黒イ鯉ヤ赤イ鯉…” 大正幼年唱歌九
- 2 天象ノ歌
- a 雨ノ歌
- a 「降り來ル雨ハ パタパタ ポツポツ…」 筆記
- b 「雨々小雨、雨小雨、…」 筆記
- c 「降レヤ降レ オ庭ノクボミニ…」 筆記
- d 「雨サン雨サン貴女ハドナタ…」 筆記
- 3 動物ノ歌
- イ 昆虫類
- a 蝶ノ歌
- a 梅ガ散ルノカ櫻ノ花カ… 筆記
- b 花ヨリ花ヘ静カニ飛ビ日ノ暮ルノマデ来シメル… 筆記
- c 蝶々蝶々菜ノ花ニトマレ… 幼稚園唱歌集
- d ヒラヒラ舞フヨ蝶々ガマフヨ… 大正幼年唱歌一
- b 蠶ノ歌
- a ケシノミノ様ナ卵カラ… 筆記
- b タベテハ眠リ、キレイナ糸ヤ光ツタ着物… 筆記
- c 蟻ノ歌
- a チヨロ、チヨロ チヨロ チヨロ 大蟻小蟻… 大正幼年唱歌九
- b 蟻ヲ見ヨヤ子供… 筆記
- c アレアレアリコニ四ツ五ツ小サイ小サイ蜜蜂ガ 筆記
- d ブンブンブンブン、ハチガ飛ブヨアレ見ヨ草ニ 筆記
- ロ 腹足類
- a カタツムリノ歌
- a オ庭ノ垣根ニカタツムリ… 養成所筆記

- b デンデンムシムシ カタツムリ 小学唱歌
- c 見エル見エル蝸牛が見エル 大正幼年唱歌十一
- ハ 節足類
- a 蜘蛛ノ歌
- カミヨリ、糸イレテ… 桜井氏筆記
- ニ 蛙ノ歌
- a オタマジャクシハ マックロデ… 筆記
- b オタマジャクシハ大キクナッテ… 大正幼年唱歌四
- c オタマジャクシハ蛙ノ子 親ニ似ナイガ蛙ノ子… 養成所筆記
- d 池ニ飛ブ蛙ジャブンジャブンジャブン… 養成所筆記
- e 池ノホトリニ遊ブ蛙… 筆記
- f 寒イ間ハ地ノ中ニ… 筆記
- g 一ツ飛ンデハ両手ヲツイテ… 大正幼年唱歌二
- h セドノヤブカラノツソト… 新作唱歌
- ホ 魚類
- a 金魚ノ歌
- a 庭ノ中ニオ池ヲ堀ッテ… 養成所筆記
- b 鯉ノ歌
- a 浮ビ出テ遊ベヨ池ノ鯉 緋鯉ヨ… 養成所筆記
- b 小サナ鯉ニフヲヤレバ… 大正幼年唱歌二
- c 大キナ鯉小サナ鯉… 大鳥井氏筆記
- c メダカノ歌
- a 小川ノメダカ… 教育幼児唱歌集
- ヘ 鳥類
- a 鶯ノ歌
- a 梅ノ花ガ咲イテ居ル私ノ庭ニ… 筆記
- b 梅ノ木ノ枝ニ梅ノ花ガ割イタ… 大正幼年唱歌四
- c 朝日ガサシタ トナリノ梅ニ… 筆記
- d 小サイ子小サイ子オ前ハ何ヲシテイマス… 小学唱歌集
- e ウグヒス ウグヒス谷間ノウグヒス… 桜井氏筆記
- f 谷間ヲ出デノ来シキ春ヲツグル… 養成所筆記
- g 春ガ来タトテ梅ノ花ガ笑フ… 筆記
- b 雲雀ノ歌
- a 霞ヲシノギテ雲井ノ空ニ… 筆記
- b 雲雀ハ歌ヒ蝶々ハオドル… 筆記
- c 日ノ出ヌウチニ青空高クサヘヅル雲雀… 大正幼年唱歌九

- d 雲雀ハ上ル天マデモ… 筆記
- e ピーピーピートサヘヅルヒバリ… 筆記
- f 廣イ野原ヤ、アノ青空ヲ… 筆記
- c 燕ノ歌
- a カヘリ行クトモ霞立チ… 幼稚園唱歌
- b 燕ノヒナガ大キクナッテ… 桜井氏筆記
- c 電信線ニ三四羽ノ燕ガトマッテ… 大正幼年唱歌五
- d ノキニ巢ヲクフ親ツバメ… 新作唱歌二
- e 燕々今年マタ可愛ユイ奇麗ナヒナ生ンデ… 筆記
- d 雛及ヒヨコ
- a ヒヨコ ヒヨコ ピヨピヨ ナイテ… 大正幼年唱歌四
- b ヒヨコ、ヒヨコ 小サナ、ヒヨコ兄弟仲ヨク… 小学唱歌集
- c コケッココ、コケッコ コケッコ 東ガシラム… 筆記
- d ウチノヒヨコハ可愛ラシ… 幼稚園唱歌
- e ヤサシキ父母 ヤハラカキ床… 波多野氏筆記
- f ウラノ小舎ノニハトリガ… 波多野氏筆記
- e 雀ノ歌
- a 雀々オヤドハドコダ…
- b 雀々今日モマタ暗イ道ヲ只一人…
- c 雀ガ居マス柳ノ枝ニ… 幼稚園唱歌
- d アチラノ屋根デチュンチュン雀… 筆記
- f 烏ノ歌
- a カラス、カラス、ドコヘ行ク…
- b カア、カア、カラスガナイテ行ク…
- c アサヒニイソグアサガラス… 幼稚園唱歌全集
- g 鳩ノ歌
- a ハトポッポ、ハトポッポ… 養成所筆記
- b ポッ ポッ ポッ ハトポッポ… 養成所筆記
- c ハトゴヤ  
ポッポ ポッポよハトポッポ 養成所筆記
- ト 獣類（冬ノ部ニ入ルト方可サラン、季節ノ定ナシ）
- a 犬ノ歌
- a ペスペス来イ来イ、オダンゴヤルヨ…
- b 外ニ出ル時ツイテ来テ… 小学唱歌集
- c 私ハオウチノ犬デスヨ…

## 4 植物ノ歌

- a 梅ノ歌
  - a 咲イタヨ咲イタ… 養成所筆記
  - b 雨ノ枝ニチラホラト…
- b 櫻ノ歌
  - a 桜ガ咲イタ桜ガ咲イタ野ニモ山ニモ桜ガ咲イタ… 大正幼年唱歌一
  - b ノベニ山ニ櫻ノ花ガ咲イタ… 養成所筆記
  - c 上ニモ下ニモヒラヒラパラパラ… 養成所筆記
  - d 春雨振リテ野山ハカスム… 養成所筆記
  - e ヤヨ花櫻ヨソダツ… 幼稚園唱歌集
- c 椿ノ歌
  - a ツバキヨ ツバキヨ … 大鳥井氏筆記
- d 藤ノ花ノ歌
  - a オ池ノ柵ニ咲イタ藤ハ…
  - b 美シヤ藤ノ花… 養成所筆記
  - c 美シヤ藤ノ花 紫ニ… 養成所筆記
- e 種蒔キ
  - a 小サキ種ヨ土ノヒトマニ… 筆記
  - b 小サイオ庭ヨリナラシテ… 筆記
  - c 小サメヨ オキヨ 小サキ種ヨ… 筆記
  - d ニンジン、ダイコ、カブラ… 筆記
  - e 百姓ハドウシマスカ… 養成所筆記
  - f 我地ナラシタル小サキ庭ニ… 養成所筆記
- f 其ノ他数々
  - a 私ノ花壇ハ小サイケレド… 筆記
  - b コレ御覧ナサイ キレイナ花… 大正幼年唱歌十一
  - c アレアレ嬉シイ オ花ガ咲イタ… 大正幼年唱歌十二
  - d 花咲ク春ノアケボノヲ… 幼稚園唱歌集
- 5 雑ノ歌
  - a 水車（風車）ノ歌
    - a 水車水ノマニマニメグルナリ…
    - b 風車風ノマニマニメグルナリ…
    - c 川一面ニハリツメタ、カタイ氷モ溶ケ出シテ…
    - d クルリ クルリ風車休マズ廻レ風車…
  - b 小川ノ歌
    - a 家ノ前ヲバ流ルル小川… 小学唱歌集



これらの選曲については、「會集」の中の歌の目的に「3 時候ノ気分ヲ味ハシム」「5 言葉ニテハ表現出来ヌ事柄ヲ歌ヲ以テ云表ハス」とあり、歌の注意に「5 歌ニ表ハレタ気分ヲ充分ニ味ハシム」とあり、「時候ノ気分」を会話ではなく歌を通して味わうことを大切にして選曲していたと考えられる。

## 7. 話

「春ノ會集」には、次のようにある。

### 1 母ト子ノ遊戯ノ繪ノ話

- イ 挨拶
- ロ 鳥ノ巢
- ハ 花籠
- ニ 実
- ホ 鳩小舎
- ヘ 家族
- ト 指ノ話

### 2 特別ノ日ノ話

- イ 三月ノ部… a 三月三日ノ節句ノ話
  - b 春季皇霊祭ノ話
  - c 卒業式ニ於ケル話
  - d 陸軍紀念日ノ話
- ロ 四月ノ部… a 入園式ニ於ケル話
  - b 神武天皇祭ノ話
- ハ 五月ノ部… a 端午ノ節句ノ話
  - b 招魂祭ノ話
  - c 海軍紀念日ノ話

### 3 天象ノ話

- イ 雨ノ話
- ロ 霞ノ話
- ハ 雲ノ話
- ニ 露ノ話
- ホ 梅雨ノ話

### 4 動物ノ話

- イ 昆虫ノ話
  - a 蝶ノ話
  - b 蜂ノ話

- c 蟻ノ話                      d 蠶ノ話
- ロ 腹足類
- a カタツムリノ話
- ハ 節足類
- a 蜘蛛ノ話
- ニ 蛙ノ類
- a 蛙ノ話
- ホ 魚類                      a 鯉ノ話                      b 鮒ノ話
- c 金魚ノ話
- ヘ 鳥類                      a 鶯ノ話                      b 雲雀ノ話
- c 燕ノ話                      d 雀ノ話
- e 烏ノ話                      f 鶏ノ話
- 5 植物ノ話
- イ 庭園植物
- a 梅                      b 櫻                      c 桃
- d 梨                      e 李                      f 枇杷
- g 柘榴                      h 椿                      i 山吹
- j 躑躅                      k 藤                      l 牡丹
- m 薔薇                      n ボケ                      o 木蓮
- p フリージャ              q パンジー                  r ヒヤシンス
- s プリムローズ            t 長命菊                  u スズラン
- v 黄水仙                  j 躑躅
- ロ 野生動物
- a タンポポ                  b レンゲ                      c スミレ
- d ツクシ                      e 櫻草                      f レンリサウ
- g シャガ                      h ニリンソウ                  i ハコベ
- j ヨメナ                      k ジクニヒトエ              l ノアザミ
- m クサボケ                  n ムラサキケマン
- ハ 田畑ノ植物
- a 菜ノ花                      b 麥                      c エンドウ                  d ソラ豆
- ニ 常盤樹
- a 松                          b 杉                          c 竹
- 6 雑ノ話
- イ 乗物ノ話
- ロ 家ノ話
- ハ 風車或ハ水車ノ話

上記の中で下線を引いた項目は、「春ノ會集」の中に具体的内容が記載されているものを指しているが、下線は原資料にはなく筆者によるものである。それらを整理すると、雛ノ節句ノ話、春季皇靈祭ノ話、卒業式ノ話、神武天皇祭ノ話、端午ノ節句ノ話、雨ノ話、蝶ノ話、蜂ノ話、カタツムリノ話、蜘蛛ノ話、蛙ノ話、鯉ノ話、燕ノ話、鶏ノ話、梅ノ話、麥ノ話の16項目である。以下、その中ノ「雨ノ話」「蜂ノ話」「蜘蛛ノ話」を取り上げる。

## 8. 雨ノ話

「春ノ會集」には次のようにある。

皆サン今日ノオ天気ハドンナデセウ、雨ガ降ッテ居リマスネ、ズイブン勢ヨク降ッテ居リマス事、ズット高イ所カラ、細イ糸ノ様ニナッテ降ッテ居リマス。アンナニドンドン降ッテル雨ハドコヘ行クノデセウ、

オ池ヘハイッテイクモノ、地面ノ中ヘシミ込ンデ行ッテ草ヤ木ノ根ニ吸ッテイタダクモノモアレバ又ズンズン奥ノ方ヘ流レテ行ッテ他ノオ友達ト一緒ニ流レテ居リマス オ砂ヤ石コロノ間ヲ通ッテイル間ニ奇麗ナ奇麗ナオ水ニナリマス、ケレド下ノ方ハ暗イモノデスカラ、ドコカ明ルイ所ヘ早く出タイト思ッテ居リマス少し変ッタ所ヘ出マシタ、上ノ方ヲ見マスト小サイ丸イ明ルイモノガ見エマス、アレハ何デセウト不思議ニ思ッテ居マスト 上ノ方カラガラガラガラト音ヲタテ、何か落ちて来マシタ、オヤオヤドーナル事カトビックリシテキマスト 落ちテ来タモノハ桶ノ様ナモノデソノオ水ノ体ハ、イツノ間ニカ、ソノ中ヘ入ッテ居リマス、ソシテスグニクルクルルト上ノ方ヘ引き上げラレテ行キマス。ダンダン明ルクナッテ来タト思ッテイマスト、ザート云フ音ト一緒ニ体ハ桶カラ、ハネ出サレマシタ コノ桶ハ何ダッタノデセウ 皆サンオ分リニナリマスカ井戸ノ釣瓶デスネ、コウシテクマレタ水ハキツソノオ家ノ方ノ御用ヲシタ事デセウ。

ここまでは、子どもたちが水となり、水の多い少ないを、お友達の多い少ないに例え、雨が地面を伝い井戸水となり汲み上げられる流れを話している。

ソレカラコノ他ニオ山ノ木ノ上ニ降ッタ雨水ハ他ノオ友達ト一緒ニナッテ草ノ間ヲ通ッテ細イ溝ノ様ナ所ニ出テ来マス。アッチカラモ、コチラカラモオ友達ガ集ッテ来テダンダン澤山ニナッテ来マス ソシテ流レテ行ク中ニ少し中ノ廣イ所ニ参リマス オ友達ガ多クナルノデ皆喜ンデサラサラトオ話ヲシナガラ行キマス。ソーシマスト今度ハ鯉ヤ鮒等ガオ遊ビニ来テウレシソウニソノ中デ泳イデ居リマス。コレハ皆サンノ御存ジノ川デス。川ノ中ノオ水ハチットモオ休ミシナイデ ズンズン流レテ居リマス。時々高イ所カラオ日様ガテラテラト輝イテ見テ居リマス、ソノ中ニオ水ハ廣イタタ所ヘ出テ来マス、ドッチヲ見テモオ友達バカリ、ズイブン澤山ノオ友達ダ事トビックリシテ居リ

マス。今度ハ今マデヨリモ大キナオ魚ガ遊ンデ居リマス。小サイオ舟ヤ大キナオ船ガ浮イテイマス。ココヲ何ト云フノデセウ、サウ海デスネ。

ここまでは、川から海へと流れる中で、お友達がとても多く集まり、喜んだり驚いたりしながら、魚や船と出会う旅を話している。

オ水ハ廣イモノデ、モウ嬉シクツテアッチヘ行ツタリ、コッチヘ來タリシテキマス。オ日様ハ高イ所カラ、ソノオ水ヲ照ラシテ居リマス。シバラクスルトオ水ノ身体ハダンダン暖カクナツテ、ソレカラ今度ハ輕クナツテ、ヒトリデニ上ノ方ヘ上ツテ行キマス。オヤオヤ不思議ダナート思ツテ居マスト、ズンズンズンズン自分ノ身体ハ上ノ方ヘ行キマス。皆サンハ鐵瓶ノオ湯ガシュンシュン沸イテイル時ニ、ソノ口カラ出テキルモノヲ御存ジデスカ。ユゲト云フデセウ。

上ノ方ヘ上ツテ行クオ水ノオ身体ハ丁度アンナ、ニナツテ上ヘ上ヘト行キマス。空ノズツト上ノ方ハイツデモ大変寒イノデス、ソレデ上ヘ上ツテ行ツタユゲニナツタオ水ガ、ソノ寒イノニ會ヒマスト冷エテ水ノ球ニナツテシマヒマス、オヤ変ダト思ヒ乍ラモ寒イ所デ、フカフカト浮イテ居リマス。一人ダト思ツテイマストイツノ間ニカ、マハリニハオ友達ガ集ツテ居リマス。寒イ所ヘ來タモノデスカラ面白ガツテ、ミンナハ風ニ吹カレナガラ、アッチコッチヘト浮イテキマス。ソレヲ皆サンハ下ノ方カラ見テ雲トオッシャルノデス。

水球ガ空デ浮イテキル中ニアンマリオ友達ガ澤山ニナルト重クテ、トテモ上ニ居ラレナクナツテ、ダンダン下ヘ下リテ來ルノデス。

早く下リテ來マスト糸ノ様ニ續イテ見エマス、ソレテ皆サンハ雨ガザアザア降ツテ來タナンカ云ツテ喜ンデ御覽ニナルデセウ、コンナニシテ下ヘ來タ雨ノ水球ハ又オ池ヤ川ヤ海ヘ行ツテソシテオ日様ニテラサレルト又ユゲニナツテ空ニ上リマスコウシテ雨ハイツモ寒イ上ニ行ツタリ下ニ下ツタリクルクルトマハツテ居ルノデス

コノユゲガ寒イ上ノ方ニ行カナイ間ニ冷タイ風ニ會ヒマスト急ニ冷エテ奇麗ナ水球ニナツテ草ヤ木ノ葉ツパノ上ニノツテ居リマス、朝皆サンガ起キテオ庭ノ草ヤ木ヲ御覽ニナルトキット水球ガノツテイマスヨ、オ天気ノイ、朝デスヨ、コレヲ霧ト云ヒマスデセウ、霧モ雨ノ御親類ナノデス、オ分リニナツタデセウ。

ここまでは、海の水がお日様に照らされ暖められて蒸発し湯気となり、空の上で冷やされ水球となり雨になることや、蒸発した湯気が空に届く前に冷やされて水球になったものが霧であることを、子どもが水になったことに例えて、水の循環についての話をしている。

## 9. 蜂ノ話

「春ノ會集」では蜂の羽根や眼について触れた後に、次のようにある。

皆サンハ蜂ノオ家ヲ御存ジデスカ、大変上手ニ作ルデセウ。蜂ノ中ニ色々ナ蜂ガアリマスガ、皆立派ナオ家ヲ少シヅ、違ッテイマスガ造リマス。木ノ枝ヤオ家ノ軒下ニ鏡ノ様な形ノ巢ヲ造リマス、ソレニ小サイ穴ガ澤山アルデセウ。アノ穴ノ中ニ住ンデ居ルノデス。クマバチト云フソレハソレハ大キナ蜂ガ居マス、コノ蜂ハ大キナオ寺ノ高イ檐下ヤ大キナ樹ニオ家ヲツクリマス。蜂ハ澤山一所ニ住ンデ居ルノデス。

コノ他ニマダ蜜ヲ大変好キナ蜂ガ居ルデセウ。蜜蜂ト云ヒマス。コレカラ蜜蜂ノオ話ヲシマセウ、コノ蜂ハ大勢集ッテ一緒ニツノオ家ニ済ンデキマス。ソノ中ニ一匹ノ女王ガアリ。ソノ女王ノ御用ヲスル蜂ヤ、オ外ヘ行ッテオ食事ニスルモノヲサガシテキタリ。オ家ノ中ヲ、キレイニスル蜂等ガキルノデス。オ家ノ中ニハ赤チャンガ澤山イルノデス。オ仕事ヲシニ行ク蜂ハ毎日朝早クカラ外ノオ花ノ間ヲ飛び廻ッテ蜜ヲ戴イテ来マス、オ花ニ止マッテ蜜ヲ吸ッテイル間ニオ花ノ上ニアル黄色イ粉ガ足ニ付キマス。ソレヲ蜜ト共ニオ家ヘ持ッテ帰ッテ女王ヤ赤チャンノオ食事ニスルノデス。澤山アッテ残ッタ時ハ冬ノオ食事ニスル為ニ、シマッテヲクノデス。赤チャンハ、コンナニシテ御馳走ヲ頂イテイル間ニダンダン大キクナッテ行キマス。ソシテオ父サン蜂ノ様ニ大キクナリマスト澤山デスカラ皆一緒ニオ家ニ居ル事が出来ナクナリマス。コーナリマスト旧イ女王ハ大キイ旧イ方ノ蜂ヲツレテオ引越シヲシマス。ソシテ又別ニオ家ヲ造ルノデス。

大キクナッタ蜂ノ中ニモ又御用ヲスル蜂ヤオ家ノ中ノ御掃除ヲスル蜂等ガ居ルノデス。御用ヲスル蜂ハ又外ヘ出テ行ッテ。オ花ノ間ヲ飛び廻ッテ蜜ヲ集メテ来マス。コノ御用ヲスル蜂ハオ家モツクル事が出来ルノデス。大工サンノ御仕事ヲスルノデス、オ家が壊レルト直シタリ小サイ時ニハ大キクシタリスルノデス。コノ蜂ノ御身体ノ中ニ蠟ト云フモノガアルノデス…皆サンローソクヲ御存ジデセウ。アノローソクハ蠟デ出来テイルノデス…ソノ蠟ヲ出シテオ家ヲ作ルノデス。此蜜蜂ガ集メル蜜ハ大変甘クテオイシイモノデス。色々ナモノニツケテ食べマスト、ホントニオイシク又薬ニモナリマス。ソレデスカラ蜂ガ澤山澤山貯ヘタ時ニハ少シズツ私共ハ蜂ノオ家ヘ行ッテ頂イテ来ルノデス。此蜂ハ赤チャンノ入ッテイル卵ヲ一ツノオ室ニ一ツツツ入レテソコニ蜂パンヲ入レテフサクグノデアリマス。

ここまでは、蜂に各々の役割があり、大きな家の中で協力し合って生活しており、家族が増えると新しい家を作り引っ越しをすることや、蠟を用いて家を作ること、蜂が苦勞して集めた蜜を人間が少しずつ頂くことを話している。

## 10. 蜘蛛ノ話

「春ノ會集」には次のようにある。

昨日オ庭ノ木ノ枝ニキレイナ白イ細イ細イ糸デ出来タ網ノ様ナモノガカ、ッテイマシタ。ソノ網ノ真中ニ小サナ虫ガキマシタヨ。何ダトオ思ヒニナリマスカ。蜘蛛ダッタノデス。蜘蛛ハ蜂トドンナニ違フデセウ。蜂ノ様ニ翅ガアリマセンネ。

肢ハドーデセウ。澤山アリマスデセウ。八本アルノデス。ソレカラニツオ髭ヲ持ッテイルノデス。コノオ髭ハ、モノニ觸ッテ、ソレガ何ダカ知ル事が出来ルノデス

蜘蛛ノ脚ノ先ニハ櫛ノ様ナ形ヲシタ爪ガアルノデス。又蜘蛛ハ大変オ機ヲ織ル事が上手デオ体ノ中カラ細イ細イ糸ヲ出シテソレデモッテ、ソレハ奇麗ナ網ノ様ナモノヲ織ルノデス。ソノ時ニサッキノ爪が大変御用ニ立ツノデス。アノ爪ヲ上手ニ動かシテ見テ居ル間ニ作リマスヨ。

皆サンハ、皆サンガ着テイラッシャルオ着物ニスルソノ布ヲドウシテ作ルカ御存ジデスカ。他所ノオ叔サンヤオ姉サン達ガ細イ糸デギーギー、トントン、ト織ッテイラッシャルノヲ御覧ニナッタ事がアリマスカ。

丁度アンナ様ニ蜘蛛ハ自分ノ脚デアンナニ立派ニツクルノデス

アレヲ蜘蛛ノ巣ト申シマスデセウ。御自分デ作ッテ、ソシテ、アノ真中ニ止マッテオ休ミスルノデス。

蜘蛛ノ赤チャンハ澤山澤山裏ノ中ニ一緒ニ入ッテイマスガ、ソノ裏ガ破レルトソノ中カラ、バラバラト出テ來テ皆好キナ所ヘ自由ニ行キマス

小サイ時カラ、ヤッパリ糸ヲ出シテ機ヲ織ルオケイコヲシテキルノデス

ズイ分可愛イ、モノデス。巣ヲ作ッテキル時ニヨク見テイテ御覧ナサイ上手ニ早く造リマスヨ。

ここまでは、蜘蛛が髭、爪、糸を持ち、糸を吐き織ることの不思議さと器用さを話している。それはお叔や姉が布を織るのと同じ行為であると話している。

## 11. 会集の話に込められたもの

前稿においても触れているが、「會集」の話の目的の中には、「5 多クノ言葉ヲ知ラシム」「6 話ヲ通シテ自然物ヲ知ラシム」「8 自分ト他ノモノトノ関係ヲ知ラシム」「9 全テノモノニ対シテ同情心ヲ持タシム」とある。

「雨ノ話」は、水の循環の不思議さや面白さを話しており、井戸の水として家庭の御用に役立っていることを伝えている。

「蜂ノ話」は、蟻と蜜を軸とした蜂の生態の不思議さを伝えている。大きな家の一員として

働く中で、次の世代の赤ちゃんが育ち、増えて手狭になると引っ越しをし、新しい家が創られていくことに、人間の家族の営みと同じ温かさに子どもが共感することが意図されている。そしてその働きの一部を蜜として人間が味わうことで、感謝の念を感じることが意図されている。

「蜘蛛ノ話」もまた、爪と糸とで、織り物をして巣を巧みに作り上げる小さな虫の見事さや不思議さを伝え、赤ちゃんが産まれるまで守ることを伝えている。

話を通して、子どもが自然を知り、自然と自分との関係を知り、生の営みを行う存在として生き物を捉えられるようになることが意図されている。

「會集」の中で話の準備については「1 如何ナル質問ニ対シテモ答ヘ得ル様充分ノ準備ヲナス」「2 話ニ入用ナル材料ハ悉ク用意ナシタク」「3 材料ノートシテ繪ヲ書キテ幼児ニ示ス事モ必要ナリ」とあり、方法については「1 幼児ニ質問ナシ乍ラ話ス」「2 實物ヲ示シテ話ス」「3 絵画ヲ示シツツ話ス」「4 實物ヲ幼児ニ持タセ或ハ觸レサセテ知ラシム」「5 話ノ間ニ歌ヲ入レルモヨシ」「6 説明為スニ必要ナ手眞似或ハ口眞似等ハ必要ナリ」とある。ここから保姆は話の対象となるものを、念入りに調べ、実物を集めたり絵に描く準備を行い、質問をしながら話を展開し、子どもからの質問にも回答を行い、実物に触れさせたり絵を示したりして話をしていたと考えられる。

このようにみると話は、子どもが、事物や生き物を観察してその営みや存在を客観的に捉えること、特に「雨ノ話」が自分自身や友達が水になって自然界を循環することに想像力を働かせるものになっており、事物や生き物の営みを感じ取り共感できるようになることが意図されていたといえる。

ここまでは年代不明の『會集』の中の「會集」及び「春ノ會集」に依拠して、話について考察してきたが、1925年（大正14年）の『幼稚園日誌』によれば、4月14日（火）から翌年の3月18日（木）までの年度中、毎回の話の題材は、次の通り、『會集』の話の内容を越えて多岐に亘っていた。

- |       |  |
|-------|--|
| 4月    | 蝶、春の動物の状態、樫の木、春の有毒植物、エンドウ、筍、牛                                |
| 5月～7月 | 月、たんぽぽ、兎、蜜蜂、肉食植物、ロバ、虫、蟬                                      |
| 9月    | 海に住むもの、鳴き声、星、稲束、朝顔、無花果、秋の時候、秋の七草、猿、かつおぶし、ざくろ、へちま、鮭           |
| 10月   | 動物の親子、栗、紅葉とすみれ、雁、柿、船、鳥、小鳥、小鳥の巣、松茸、旅行、道路、木ツツキとオウム、ポンプ、指紋      |
| 11月   | かば、木ノ葉、珍しい人種、へび、あり、金のはね、紅葉、母の愛、砂糖、神の恵を感謝する                   |
| 12月   | 星ノ子、霜、冬の動物の状態、鳩  |
| 2～3月  | 白兎、七面鳥、アオノリ、アオクサ、人体に於ける血の運動、石鱈、つらら、氷、不思議なおもちゃ、酒の害、ロビンソンクルーソー |

## 12. 園藝

「春ノ會集」には、「會集」にはなかった「園藝」があった。

### 1 目的

- イ 自然ト近ク接スル事ニヨリテ自然トノ關係ヲ知ラシム
- ロ 神ノ愛ヲ知ラシム
- ハ 生命ヲ貴ブニ至ル
- ニ 美的觀念ヲ増進セシム
- ホ 幼児ノ健康ヲ増進セシム
- ヘ 同情心ヲ養フ
- ト 各自養護者タル責任觀念ヲ深カラシム
- チ 世話ヲナスノ快感ヲ味ハシム

### 2 準備

- イ シャベル                      ロ 鍬
- ハ バケツ                        ニ 漏斗
- ホ 油槽（肥料）                ヘ 篩
- ト 棒（蔓物ノ為）              チ 札
- リ 構ヲスル為ニ木 小石 貝 等ヲ準備ス

### 3 方法

- イ 場所ヲ撰ブ…日當リノヨキ所ニ種ヲ蒔ク
- ロ 養分ヲ與ヘル…水ヲヤル
- ハ 害虫ヲ他ニ移ス

### 4 注意

- イ 營養ヲ充分ニトラシムル様ニス
- ロ 空氣ノ流通ハヨク而モ餘リ烈シク風ノ當ラザル所和ヲ撰ブ
- ハ 大樹ノ下ハ避ケル事
- ニ 時節ヲヨク考ヘソノ時節ニ適當ナモノヲ植ユ
- ホ 種子ノ蒔キ方ニ注意ス
- ヘ 深サヲ注意ス
- ト 營養ヲ多ク要求スル植物ト然ラザルモノトアレバコレ又注意ヲ要ス

前稿でも触れたように村山貞雄によれば大正期の幼稚園で、園芸を保育項目にしていたところがあり、岡山市立幼稚園もそれを採り入れていたとしているが（日本保育学会1969: 53-54）、竹中幼稚園においても「夏ノ會集」の中の一つとして行われていたといえよう。但し年代は今のところは特定できていない。



## おわりに

本稿では「春ノ會集」について整理しながら、「春ノ會集」の特性を、「會集」の概要と重ね合わせて考察した。竹中幼稚園の「春ノ會集」の話は、子どもの想像力を掻き立て、事物や生き物の営みを客観的に捉えて共感できることを意図したものであったことを確認した。

次稿では、『會集』の中の「夏ノ會集」の特性を、「會集」の概要と重ね合わせて考察したい。加えて大正期の竹中幼稚園の保育内容をさらに明らかにしたい。

## 謝辞

竹中みつ氏および竹中幼稚園の資料を研究として使用するにあたり、倉敷教会の中井大介牧師、竹中幼稚園の小山光子園長から、専属的な許可とご依頼を戴いた。ここで改めてお礼を申し上げます。

## 引用文献・参考文献

高月教恵（2010）『日本における保育実践史研究―大正デモクラシー期を中心に―』御茶の水書房

竹中みつ（1924）『個人日記』

竹中みつ（1925）『幼稚園日誌』

竹中光子（年代不明）『會集』

\*竹中光子が本名であるが、存命中、二つの名前を使用していることから、本人が竹中光子もしくは竹中みつと記載したものについては、その通りの表記とする。

日本保育学会（1969）『日本幼児保育史 第三巻』フレーベル館

（受理日 2021年1月7日）